



2020年9月 第18巻 第9号

### かく語りき—聖人の言葉

少しの利己的動機もなしに他者のために働く人は、  
じつは自分のためになることをしているのです。

…シュリー・ラーマクリシュナ

物事が生じるのは、私意識という幻覚 (the illusion of self) \*からです。私意識という幻覚から切り離されて、物事はあらわれるのです。私意識の楽しみに生きようとすると、悲しみの網にからまれます。

…主ブッダ

\*私意識という幻覚 (the illusion of self) とは、ヴェーダーンタ哲学でいうアートマンと同じことを指します。

### 今月の目次

- かく語りき—聖人の言葉
- お知らせ
- 2020年11月の予定

- 2020年8月逗子例会  
「シュリー・クリシュナの神聖な遊び」  
講話者：スワーミー・ディッヴィヤナターナンダ
- 忘れられない物語
- 今月の思想

### 今月の予定

#### <お知らせ>

- 11月も引き続きすべてのプログラムはライブストリーミングを行います。  
☞ [ライブストリーミング](#)
- Zoomを使ったオンライン講話は「ラーマクリシュナの福音勉強会」と「インド大使館バガヴァッド・ギター聖典講義(於:逗子協会)」です。Zoomにはお申し込みが必要です。詳細☞ [zoom.nvk@gmail.com](mailto:zoom.nvk@gmail.com)
- すべてのプログラムは 逗子協会でも参加することもできます。その際は3日前迄に [benkyo.nvk@gmail.com](mailto:benkyo.nvk@gmail.com) にお知らせ下さい。

### 2020年11月の予定

・11月の生誕日

スワミー・スボダーナンダ  
11月26日(木)

スワミー・ヴィッギャーナナンダ  
11月29日(日)

・これからの協会の行事

<10月のスケジュール>

10月25日(日) 14:00~16:00

逗子午後例会(日本語)

★メールによるQ&A有

テキスト「瞑想と霊性の生活I」は

☞[こちら](#)

講話のまとめは ☞[こちら](#)

<11月のスケジュール>

11月07日(土) 14:00~16:00

バガヴァッド・ギター聖典講義

(日本語)

★Zoom、メールによるQ&A有

テキスト「バガヴァッド・ギター」

は☞[こちら](#)

講話のまとめは ☞[こちら](#)

※インド大使館での講義の続きです。

11月14日(土) 18:30~20:00

カーリープージャ

※招待客のみ

※18:30 からライブストリーミングを  
いたします。

11月22日(日) 14:00~16:00

ラーマクリシュナの福音勉強会

(日本語)

★Zoom、メールによるQ&A有

テキスト「ラーマクリシュナの福音」

は☞[こちら](#)

勉強する部分のPDFと講話のまとめは

☞[こちら](#)

11月23日(祝) 5:00~20:00

アカンダ・ジャパム

今年は例年のようにアカンダ・ジャパム  
を行うことはできませんが、

この時間帯に、個人的に瞑想や祈りを  
されたい方は歓迎いたします。

ご希望の方は、①お名前 ②ご希望の

お時間を4日前までにご連絡ください。

[benkyo.nvk@gmail.com](mailto:benkyo.nvk@gmail.com)

11月29日(日) 14:00~16:00

逗子午後例会(日本語)

★メールによるQ&A有

テキスト「瞑想と霊性の生活I」

は☞[こちら](#)

講話のまとめは ☞[こちら](#)

<講話の際のQ&Aについて>

講話のライブストリーミングでは、  
皆様からの質問メールを受け付けて  
おります。

質問がある方は15:25位までに質問の  
メールを送ってください。

・送り先: [benkyo.nvk@gmail.com](mailto:benkyo.nvk@gmail.com)

・ご質問の内容は、日本語で、わかり  
やすい言葉で、短くシンプルにお願い  
します。

- ・プライバシーポリシーにより、お名前は公表いたしません。
- ・講話が始まる前に、質問メールがすぐ送信できるようにご準備ください。

＜ホームレス・ナラ・ナーラーヤナへの奉仕活動＞

日程：通常 毎月 第4金曜日

現地でのお食事配布など。

お問い合わせ：佐藤

urara5599@gmail.com

＜ハタヨガ・クラス＞

日程：通常 毎月 第1、第2、第4土曜日

時間：10：30～12：00

レッスンが変更になる可能性もございますので直接、担当講師にご連絡ください。

お問い合わせ：080-6702-2308

(荒井弘人)

メール：ochanomizuyoga@gmail.com

\*専用ホームページはこちら

☞ [ヨガ教室ホームページ](#)

## 2020年8月返子例会

### シュリー・クリシュナ生誕祭

#### 「シュリー・クリシュナの神聖な遊び」 スワミー・ディッヴィヤナターナンダ

私たちは今日、シュリー・クリシュナの生誕を祝うためにこうして集まりました。生誕祭の初めに、ヴェーダの

マントラを唱え、賛歌を歌い、『バガヴァッド・ギーター』の朗誦をし、ハレ・クリシュナのキールタンをしました。これからシュリー・クリシュナの話をするので、その生涯と教えについて思いをめぐらせてください。



形も属性もない至高のブラフマン (Supreme Brahman) が人間の姿となつてあらわれるのは、時代が必要とした時です。この世に善をなすために神聖な人として出現しますが、「彼」は生も死も超越しています。「彼」は、この世の悪を破壊し、正義を行き渡らせるために地上に降りたつのです。「彼」が人間としてあらわれる一番の目的は、私たちの心を神へと向かわせることにあります。「彼」が愛の対象になれば、「彼」のことを考えたり、「彼」の人間的な面について瞑想することが容易になるからです。聖典が瞑想せよと指示するのは、「彼」の形、性質、神聖な遊びについてです。なぜならそういった瞑想は、「彼」への愛を確実に深めるからです。

### シュリー・クリシュナの生誕

カンサ王という強力な暴君がマトゥラー国を治めていました。彼は、妹デーヴァキとヤーダヴァ国の王子ヴァスデーヴァとの結婚を取り計らいました。ヴァスデーヴァとデーヴァキの婚礼が終わり、カンサが結婚パレードの馬車の御者をしていると、お告げが聞こえてきました。その声は、お前がエスコートしている妹デーヴァキの 8 番目の息子がお前を殺すであろう、と言ったのです。恐れをなしたカンサはデーヴァキを殺そうとしましたが、すんでのところでヴァスデーヴァが割って入り、カンサ王にとって危険なのはデーヴァキではないはずで、子供が生まれるたびにその子をカンサ王にお渡しいたしますから、と命乞いをしました。カンサはその約束を聞き入れて、デーヴァキを殺しませんでした。

カンサは、デーヴァキとヴァスデーヴァの間に子供がひとり生まれては殺し、またひとり生まれては殺しました。両親はそのたびに泣いて哀願しましたが、強力なカンサに囚われている身では、なすすべなどありませんでした。カンサは 8 番目の子供が生まれる前に両親を牢にぶち込んだのですが、その牢で不思議なことが起こりました。「主」ご自身があらわれて、ヴァスデーヴァとデーヴァキの 8 番目の息子として降誕すると決めたので、悲しむことなどない、と保証したのです。「彼」は、「彼」の両親となるデーヴァキとヴ

ァスデーヴァに、次のように指示をしました。父ヴァスデーヴァは、「彼」が降誕するとすぐにその赤子を連れて、マトゥラーに近いゴクラのナンダ王の屋敷に「彼」を連れていくように。ここではナンダの妻ヤショーダーが娘を産んだばかりなので、その娘と「彼」をすり替えるように、と。



そのお告げのあとに、主クリシュナはマトゥラーの牢でヴァスデーヴァとデーヴァキの子供として生まれました。ヴァスデーヴァが「主」の言われたことに従おうと赤子をしっかりと抱きかかえたときのことで、神のご加護により、牢の門は開き、足鎖が解かれました。こうしてヴァスデーヴァはゴクラへと出発しました。二人は難なくヤムナー川を渡りきり、ナンダの屋敷に着きました。ヴァスデーヴァは赤子クリシュナをヤショーダーのそばにそっと置き、彼女の生まれたばかりの娘とすり替えました。ヤショーダーはぐっすりと眠っていたので、この出来事に気づきませんでした。

ヤショーダーとナンダのいたずら坊や

カンサから逃れたクリシュナはヤショーダーとナンダの子供として育ちました。他の子どもたちと同じように、クリシュナも大変ないたずらっ子でした。彼は牛乳、バター、チーズが大好きで、自分の家のチーズやバターを食べるだけでは飽き足らずに、近くの牛飼いの家々に行っては、そこにあるものを盗って食べました。皆は、この子は悪さをするけれど、なんだかとても特別で魅力的だと感じていました。近所の人たちはクリシュナの悪さを気に掛けるどころか、家に来たのを見ると嬉しくなりました。まるで鉄が磁石に引き寄せられるように、クリシュナに引き寄せられたのです。

## ヴリンダーヴァンへ

ゴクラの牛飼いたちの生活は、悪魔たちの度重なる出現で邪魔されました。そこでナンダは家族でヴリンダーヴァンに引っ越すことにしたのですが、ヴリンダーヴァンでも重大な事件が数々起こりました。ヴリンダーヴァンのヤムナー川には、カーリヤという巨大毒ヘビが住んでいました。カーリヤの毒がヤムナー川の水を汚染したので、多くの牧童たちがその毒で死にました。それを知ったクリシュナはカーリヤを退治しましたが、命だけは奪いませんでした。命拾いしたカーリヤは、ヴリンダーヴァンとヤムナー川を去ることをクリシュナに約束したのです。

シュリー・クリシュナの生涯には、「彼」の神聖な性質を示す話や、どれほどヴリンダーヴァンの人々が「彼」への愛を深めたか、また、どのようにして彼らの平凡な生活が神聖なものへと変化したか、など多くの逸話があります。

## ラーサリーラ

『バーガヴァタム』には、ラーサリーラという神聖な愛を表現するダンスの話が出てきます。ある夜、クリシュナが吹く笛の音に魅了された牛飼いの娘ゴーピーたちは、家を飛び出し、惹きつけられるようにクリシュナのもとへと行きました。ゴーピー全員が笛の音に合わせて踊り始めると、クリシュナは神聖な力でクリシュナ自身をどんどん増やし、ゴーピーひとりひとりと一晩中踊りました。それがラーサリーラの話です。

## カンサ退治

一方、神の子クリシュナが生きっていると知ったカンサは、彼を殺そうとさまざまな策を試みたものの、すべて失敗に終わりました。最後にカンサは、マトゥラーでレスリングの試合を開催し、若きクリシュナと兄バララーマを参加者として招待することを思いつきました。クリシュナはすべてを承知の

上で、レスリングの試合に参加するためにマトゥラーへ行きました。カンサはいろいろなレスラーを使ってクリシュナを殺すはずでしたが、逆にクリシュナがレスラーどもを皆やっつけてしまいました。それからクリシュナはカンサの観戦する高座に上がり、髪を引っ張って地面に引きずり下ろし、彼を殺しました。カンサが死ぬとすぐにクリシュナは牢に閉じ込められている両親のもとに駆け付け、ヴァスデーヴァとデーヴァキを解放しました。

## グル サーンディーパニ ムニ

シュリー・クリシュナは、至高のブラフマン、全知そのものですが、人生のさまざまな時期の義務を教えるために、人間となってあらわれました。そしてご自身は全知であるにも関わらず、知識を得て完全になるには誰かを師として受け入れるべきだ、ということの模範を示したのです。そのためにクリシュナは兄のバララーマと共にヴェーダやウパニシャッドを学ぼうと、サーンディーパニ・ムニのもとへ行きました。二人は聖典やさまざまな芸術をサーンディーパニ・ムニの指導のもとで学びました。彼らは献身的な弟子でしたし、学習者に課せられた修養を非常に注意深くやり抜きました。当時、師のもとでの学びが終了すると、弟子がグル（師）に贈り物をするという習慣がありましたが、それをグル・ダクシ

ナと言いました。サーンディーパニ・ムニ夫妻の一人息子が突然亡くなりました。夫妻はシュリー・クリシュナが全能であることを知っていたので、死んだ息子を生き返らせてほしいと頼みました。クリシュナは師と妻を喜ばせるために、また師へのグル・ダクシナとして、死んだ息子を「彼」の霊力によって生き返らせました。

## クルクシェートラの戦い

サーンディーパニ・ムニのもとで学んだ後、クリシュナとバララーマはパンチャーラ国に向かいました。その当時、王が諸隣国の王子たちを招待し、王女が王宮の広間でその中から夫を選ぶという習慣がありました。王女は求婚者の間を歩きまわり、最後に夫として選んだ者の首に花輪をかけるのです。この儀式はスワヤムヴァラと呼ばれたのですが、クリシュナがユディシュティラ、ビーマ、アルジュナ、ナクラ、サハデーヴァというクンティー妃の5人の息子、パーンダヴァ兄弟に会ったのも、パンチャーラ国のドラウパディ姫のスワヤムヴァラでのことでした。パーンダヴァ兄弟はシュリー・クリシュナと大変親しい友になりました。パーンダヴァ兄弟の出来事は、『マハーバーラタ』にととても詳しく書かれています。

『マハーバーラタ』の終わり近くに

は、ダルマ・ユッダ、すなわち正義の戦いが、クルクシェートラの戦場で繰り広げられたことが述べられています。シュリー・クリシュナは戦争を避けるために最善を尽くそうと、和平の使者としてドゥリヨダナのもとへさえ赴きました。しかしドゥリヨダナの決意は固く、戦争は避けられないものとなりました。そこで、シュリー・クリシュナは戦士として戦うのではなく、アルジュナの御者を務めることにしました。後に『バガヴァッド・ギーター』として知られる聖典の中で、シュリー・クリシュナがアルジュナに貴重な教を説いたのは、このクルクシェートラの戦場でのことでした。

敵味方の軍隊が向き合う中、アルジュナはシュリー・クリシュナに、敵方の顔をもっとはっきりと見たいので、両軍の間に彼の馬車を進めてほしいと頼みました。戦車から敵方を真正面に見たアルジュナは困惑しました。なぜならそこには、身内、いとこ、敬慕する同族の長老たち、武術の師ドローナチャーリヤまでもがいたからです。アルジュナは彼らと戦うと想像するだけで気が沈みました。シュリー・クリシュナがアルジュナに説教をしたのはその時です。クシャトリヤとしての義務を思い出させるその説教こそが、『バガヴァッド・ギーター』の始まりです。説教を聞いたアルジュナは勇敢に戦い、ドリタラーシュトラ王とガンダリ妃の

100人の息子カウラヴァ兄弟は全員戦死しました。戦いが終わると、パーンダヴァ兄弟の長男ユディシュティラが王となりました。

## ご自身の住処へ戻る準備

戦いが終わるとシュリー・クリシュナは、クル王国を離れる前に、ガンダリ妃の祝福を受けようと会いに行きました。しかしガンダリは祝福するどころかシュリー・クリシュナを呪いました。なぜなら、シュリー・クリシュナなら戦争を防げたはずだし、そうすれば息子たちが死ぬこともなかったと思ったからです。だからシュリー・クリシュナに、おまえのヤドゥ王朝は今すぐ滅びてしまえ、おまえも殺されるがいい、と呪ったのです。シュリー・クリシュナは、戦いを避けるために手を尽くしたけれど、ドゥリヨダナが戦いを望んだのだと説明しました。それでもシュリー・クリシュナは慈悲をもって彼女の呪いを受け入れ、その場から立ち去りました。シュリー・クリシュナは、生涯の使命はやり遂げた、もう神聖な遊び、リーラは終わったのだ、と感じ、125歳でゆるやかに地上から消えることにしました。

以上、シュリー・クリシュナの生涯について非常に簡単にお話ししました。『バーガヴァタム』では詳しく「彼」の生涯について語られています。日本

ヴェーダーンタ協会では英語版と日本語版の簡略本が入手可能ですので、お手に取ってお楽しみください。

次に、シュリー・クリシュナの神聖な遊びの中から、おもしろい逸話をいくつか紹介します。

## 果物売り

これはゴクラでの出来事です。一人の年配の女性が家々をまわって果物を売っていました。彼女がナンダの屋敷の近くまで行くと、そばで遊んでいた幼子クリシュナが彼女に気づき、中庭に置いてあった粃（脱穀前の米）を手のひらいっぱい載せて、彼女の方へ走り出しました。クリシュナは果物売りのいるところに着くと、果物をちょうだい、と言いました。果物売りはこの小さな男の子のおねだりを面白がって、果物代は持ってきたの、と聞きました。

「え？ お代？」「ミルクやチーズが欲しいとき、近所に行っておねだりすると、みんなくれるんだ。ボクが勝手に持って行っても、誰もお代を払えなんて言わないよ」とクリシュナは言いました。

そう言いながら幼子クリシュナは、手のひらからこぼれ落ちずに残ったわずかな米粒を彼女に渡しました。果物

売りがこの幼子の顔を見つめながらその声を聞いていると、眠っていた母性が彼女のハートに目覚めました。果物売りはとてもクリシュナに惹きつけられたので、果物を売るのも忘れておしゃべりを続け、米粒の代わりに私の膝の上に座って「お母さん」と呼んでおくれ、一度きりでいいから、そうしたら果物を好きなだけあげる、と言いました。それを聞いた幼子クリシュナは簡単なことだと思ったので、左右を見まわしてから膝の上に座り、「お母さん」と呼びました。果物売りは言いあわせないほどの喜びでハートが満たされました。果物を差し出すと、クリシュナは食べながらどこかへ行ってしまいました。突然、果物売りに不思議なことが起こりました。名前と形からなるこの世界が視界から消え、クリシュナ意識の最高の喜びに満たされたのです。彼女が帰ろうとして果物かごを持ち上げると、かごの中には装飾品や宝石がどっさり入っていました。貧しい彼女に同情したシュリー・クリシュナが授けてくださったのだ、と果物売りは思いました。しかし宝石なんてもうどうでもよかった。シュリー・クリシュナの恩寵はすでにいただいたのだから。彼女は果物かごを置いたまま、ゴクラを去りました。そして二度と彼女を見かけることはありませんでした。

ゴパーラ・マー



この話は、シュリー・ラーマクリシュナの女性弟子ゴパーラ・マー、アゴルマニ・デーヴィーの身に起こったことを思い出させます。ゴパーラ・マーはシュリー・ラーマクリシュナと出会う以前、自分の部屋で幼子クリシュナの像、ゴパーラを長年礼拝していました。ゴパーラのために朝早くから料理をして毎日それをお供えしました。そしてついには時折、幼子クリシュナのヴィジョンを授かるようになりました。

やがて彼女はドッキネッショルでシュリー・ラーマクリシュナに出会うと、「彼」をクリシュナの化身とみなし、何度も訪れるようになりました。シュリー・ラーマクリシュナはゴパーラ・マーにさまざまな料理を作ってほしいと頼みました。そのせいでゴパーラ・マーが少しばかり不機嫌になることもありましたが、そんな時シュリー・ラーマクリシュナは、おまえさんは前世で何度も私に食べさせてくれた、おまえさんこそがあの果物売りだったのだよ、と言いました。シュリー・ラーマクリシュナも彼女に食べさせることが大好きでした。

神について考え、神への愛を育む方法は数多くあります。神を自分の子供と考える、というのもひとつの方法ですが、それを「ヴァーツツァリア・バーヴァ」と言います。果物売りは神の恩寵を授かりました。厳しい修行も瞑

想も聖典を読むことも心をコントロールすることもせずに。彼女が神の恩寵を授かったのは、ただ、息子に対する母の愛によってです。それだけでシュリー・クリシュナの恩寵を授かったのです。

## ブラフマー神の遊び

シュリー・クリシュナの生涯にはもう一つの注目すべき面白い逸話があります。ゴクラの牛飼いの少年たちは牛を放牧するために牧場に連れて行くことが日課でしたが、シュリー・クリシュナもしょっちゅう彼らと一緒に行きました。共に遊び、木陰に入って一緒に食事をし、一日中陽気でにぎやかに過ごして、太陽が沈む前に家に帰りました。ある日、食事をしようと思集まると、放牧している牛が一頭も見えないではありませんか。牛飼いの少年たちは心配しましたが、シュリー・クリシュナは、心配することはない、先に食べよう、そうしたら自分が牛を探しに行くから、と言いました。食べ終わるとクリシュナは約束どおり、牛を探しに行きました。牛がいそうな場所は全部探しましたが、牛はどこにも見つかりません。さらには、彼が戻ってみると牛飼いの少年たちも姿を消していたので、クリシュナはびっくりしました。

本当は、それはブラフマー神のいたずらでした。ブラフマー神が神の力で

牧童と牛の意識を失わせて、山の洞窟に閉じ込めたのです。ブラフマー神は、ヴィシュヌ神の化身と信じられているシュリー・クリシュナの力を試したかったのです。クリシュナは牛と牧童を見つけることができなかつたので、もちろんとても心配になりました。人間として生まれたクリシュナは普通の人と同じように落胆しました。しかし神の洞察力ですぐに理解したのは、牛も牧童もブラフマー神が隠したということ、そしてブラフマー神はクリシュナが本当は何者かを知りたくて仕組んだのだということです。そこでシュリー・クリシュナはいなくなっている牧童たちと牛を彼自身から創り出し、彼らと共に家に帰りました。皆が家に帰ると、不思議なことが起こりました。牧童の母親たちは、これまでよりももっと我が子に魅力を感じるようになったのです。母親たちは、自分の息子に対する気持ちが変わったことにとっても驚きました。彼女たちは我が子をこれまでの何倍も愛するようになりました。その愛情は言わば、シュリー・クリシュナに対する愛情と同じようでした。



この遊びは1年間続き、クリシュナは毎日、自分の心が創った少年たちや牛の群れと一緒に牧場に行きました。牛を放牧し、遊び、一緒に食事をして家に帰るといふ、これまでと全く変わらない日々を送ったのです。ある日、ブラフマー神がやってきました。ブラフマー神は、牛も少年たちも遠くで眠らせたままでしたので、シュリー・クリシュナが心で創った牛や少年たちと一緒にいるのを見て驚きました。そして、一体どちらが本物なのだろうか、と思いました。すぐにブラフマー神は、目の前で起こっていることはすべて、シュリー・クリシュナの神聖な遊びであることが分かりました。ブラフマー神はシュリー・クリシュナを試すためにいたずらを仕掛けたのですが、今やつと、シュリー・クリシュナの力が真に偉大であることが分かりました。それだけではありません、ブラフマー神は、牧童たちと牛すべてがクリシュナ以外の何物でもないことを見ました。さらには、宇宙全体がクリシュナで満たされていることを感じたのです。そして、ブラフマー神自身もシュリー・クリシュナの一部であることを理解しました。

### すべてを神にお任せする

すでにお話ししたように、シュリー・クリシュナがクルクシェートラの戦場でアルジュナに説いた教えが、後

に『バガヴァッド・ギター』として知られるようになりました。『バガヴァッド・ギター』は18章700節から成り立っていますが、そのうちの1節だけを説明します。第18章にあるその節は、『バガヴァッド・ギター』の結論である、と考えられており、アディー・シャンカラチャーリヤはこの節に関する莫大なコメントを書きました。

### 18章66節

*sarva-dharmān parityajya mām ekaṁ  
sharaṇam vraja  
ahaṁ tvāṁ sarva-pāpebhyo  
mokṣhayiṣhyāmi mā śuchah*

サルヴァ・ダルマーン パリッテヤ  
ツジャ マーム エーカン シャラナ  
ン ヴラジャ/

アハン トヴァー サルヴァ・パー  
ペーツビョー モークシャイツシヤー  
ミ マー シュチャハ//

意味：

あらゆる宗教の形式をしりぞけ、ただひたすら私に頼り、服従しなさい。そうすれば、私がすべての悪業報から君を救ってあげよう。だから、何ら心配することはない。

クリシュナがここで言っていることは、聖典の指図を気にしすぎる必要はない、神への愛を深めるために最大限に努力せよ、ということです。なぜな

ら、神への愛が育つと、他のすべてのことは容易となるからです。

同じような教えが『ラーマクリシュナの福音』の中にも見られます：

「私の母なる神に向かって、私は純粋な愛だけをお願いした。私は彼女の蓮華の御足に花を捧げて、こう祈ったのだ。『母よ、ここにあなたの善徳があり、ここにあなたの悪徳があります。両方を取りあげて、私にあなたへの純粋な愛だけをお授けください。ここにあなたの知識があり、ここにあなたの無知があります。両方を取りあげて、私にあなたへの純粋な愛だけをお授けください。ここにあなたの純粋性があり、ここにあなたの不純性があります。両方を取りあげて、『母』よ、私にあなたへの純粋な愛だけをお授けください。ここにあなたのダルマがあり、ここにあなたのアダルマがあります。両方を取りあげて、私にあなたへの純粋な愛だけをください』

ハートを神聖な愛で満たしてください

シュリー・クリシュナの生涯とその神聖な遊びを通して分かることは、「彼」が地上にあらわれて人々と共に暮らした理由は、愛について教えるためだった、ということです。「彼」と共に過ごした人々は、まっすぐに純粋な

愛で「彼」を愛するようになりました。そうやって「彼」の聖なる御足への信仰を得たのです。クリシュナの養父母ヤショーダーとナンダはクリシュナを我が息子として愛し育てました（ヴァーツァリア・バーヴァ）。彼は、実際はデーヴァキとヴァスデーヴァの子供でしたが。クリシュナは牛飼いの娘たちのハートを虜にしました、ゴピーたちのクリシュナへの愛は、夫に対する妻の愛、愛人に対する愛（マドゥラ・バーヴァ）です。牛飼いの少年たちのクリシュナへの愛情は、友としての愛（サッキヤ・バーヴァ）の実演です。パーンダヴァ兄弟もクリシュナを最も親愛なる友と思いました。

彼らはクリシュナの神聖な力つまり、「彼」が創造者であることも、救済者であることも、この世の破壊者であることも、あまり気かけませんでした。彼らは皆、長く厳しい苦行の実践をすることなしに、「彼」の蓮華の御足を避難所とするという神の恩寵で祝福されました。

私達もバガヴァーン・シュリー・クリシュナに祈りましょう。私たちのハートを神聖な愛で満たしてください。それによって、人生のつまらない問題のすべてを克服できますように。私たちの心が「彼」の蓮華の御足に溶け込みますように。

オーム ナモー バガヴァテー  
ヴァスデーヴァーヤ



## 忘れられない物語

「コーヒーを味わうのだ、カップではなく！」

大学の老教授のもとに社会に出て成功している元学生が数名やってきた。会話はすぐに、仕事や生活で感じるストレスに対する愚痴になった。

教授はキッチンから大きなコーヒーポットとさまざまな種類のカップをもってきて、自由にコーヒーを飲むように言った。カップには、陶器、プラスチック、ガラス、クリスタルでできたものがあり、その中には平凡なもの、高価なもの、名品もあった。

教え子全員がコーヒーカップを手を取ったのを見て教授は言った「気づいたかい？ 君たちは、見た目が良くて高価なカップばかり選んで、残っているのはつまらない安物ばかりだよ。一番良いものが欲しいと思うのは当たり前のことだが、それこそが君たちの

ストレスのもとなのだ。

カップがコーヒー本来の美味しさを高めはしないだろうか？ほとんどのカップは高価なことだけが取り柄だし、中にはいったい何を飲んでいるのか分からなくなるようなカップだってある。君たちは今、コーヒーを飲もうとしていたのであって、カップが欲しかったわけではないはずだ。それなのに君たちときたら、意識的に一番良いカップを選んで、その後にはお互いのカップの品定めときた。

こう考えてみなさい。人生はコーヒーである、そしてカップは仕事・お金・社会的地位をあらわすものだと。カップは人生を維持し続けるための道具にすぎない。自分の持っているカップによって、人生の生きがいや精神的な豊かさが、変化することも定まることもない。

カップだけに気を取られすぎると、コーヒーを楽しめない。

コーヒーを味わいたまえ！　カップではなく。

一番幸せな人とは、全てにおいて最高のものを持っている人ではない。

一番幸せな人とは、全てを最高のものにできる人なのだ」

…作者不明

## 今月の思想

自分を見つける最高の方法は、他者への奉仕で自分を無くすことです。

…モHANDAS K. ガンディー

発行：日本ヴェーダーンタ協会

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: [info@vedanta.jp](mailto:info@vedanta.jp)